

新春行動 スポット①

みなさん、こんにちは。

私たちは、核兵器のない平和な世界と日本を実現するために、全国で行動している原水爆禁止日本協議会、日本原水協です。

新しい年、2022年が始まりました。

今年こそ、コロナ収束後の希望ある世界、「核兵器のない平和で公正な世界」を実現する年にしましょう。

いま新型コロナによる感染が再拡大しています。

新型コロナウイルスにより、これまでに世界で約3億人が感染し、なくなった人も500万人を超えました。求められているのは、コロナの収束と人びとの命とくらしを守るために力を合わせることです。コロナ禍に、軍事力はまったく無力です。

みなさん、

世界にはいまでも1万3000発の核兵器が存在し、その威力は広島・長崎の原爆とは比べものになりません。軍事費も増え続けており、総額で年間200兆円を超えています。

意図的であれ、ミスや事故であれ、ひとたび核兵器が使用されれば、人類と地球に壊滅的な被害を与えます。核兵器で「安全」や「平和」を守ることはできません。人類を絶滅の危険にさらす核兵器はただちに禁止し、廃絶すべきです。

ところがみなさん、

アメリカ、ロシア、イギリス、フランス、中国の核5大国は、いざとなれば核兵器を使うという核抑止政策をとり続け、「近代化」の名による新たな核兵器の開発や増強をすすめています。

年明けにこの5か国は、共同声明を発表し「核戦争に勝者はなく、けっして戦ってはならないことを断言する」と表明しました。その一方で「核兵器は防衛的なものであり、戦争の抑止のためだ」と、核兵器を正当化しています。これでは核兵器の脅威はなくなりません。

核戦争を防ぐ最大の保証は、核兵器そのものをなくすことです。核5大国は、核抑止政策をやめ、自らも繰り返し約束してきた核兵器廃絶の合意を誠実に実行すべきです。

みなさん、

昨年1月、核兵器禁止条約が発効し、核兵器は道義的に非難されるだけでなく、国際法上も史上はじめて違法となりました。核兵器禁止条約への参加は増え続け、署名国は86、批准国は59、禁止条約を支持する国は128にひろがっています。3月には核兵器禁止条約第1回締約国会議が開かれます。

禁止条約の署名、批准国が世界にひろがればひろがるほど、核兵器の違法性はいつそう確かなものとなり、核兵器をもっている国も大きな影響を受けます。核兵器禁止条約を力に、核兵器廃絶へと前進しましょう。

スポット②

みなさん、こんにちは。

私たちは、核兵器のない平和な世界と日本を実現するために、全国で行動している原水爆禁止日本協議会、日本原水協です。

新しい年、2022年が始まりました。

今年こそ、コロナ収束後の希望ある世界、「核兵器のない平和で公正な世界」を実現する年にしましょう。

みなさん、

岸田首相は「被爆地の総理大臣として核兵器廃絶に全力をつくす」と言っています。実際の行動はどうでしょうか。

岸田首相が安倍政権の外務大臣であった2017年、「核兵器禁止条約は実効性がない」と言って条約の交渉会議を欠席しました。それ以後、一貫して核兵器禁止条約に背を向け続けています。

国連総会でも、核兵器禁止条約を支持し、参加を促進する決議に、アメリカなど核保有国とともに、反対の態度をとっています。

みなさん、

広島、長崎への原爆投下によって、核兵器の非人道性を身をもって体験した日本には、特別の役割があります。「核兵器と人類は共存できない」との被爆者の声と被爆の実相を世界に訴え、核兵器禁止・廃絶の行動をよびかけ、その先頭に立つ大きな責任があります。核兵器禁止条約の参加はその証です。

世論調査で7割を超える国民が核兵器禁止条約を支持し、日本政府に禁止条約の署名・批准を求める意見書を決議した地方議会は600を超えています。この声をさらにひろげ、日本政府に被爆国としての役割を果たさせましょう。

「日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める署名」にご協力ください。